

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 25

学校名・団体名	上越市立大手町小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	体験と言語をつなぎ資質・能力をはぐくむ
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p>当校は文部科学大臣指定研究開発学校（本年が初年度：4年次）として、「『自立』と『共生』を目指す教育課程の創造」をテーマとして実践研究を進めている。子供に、これからの社会を切り拓いていく6つの資質・能力（「自律性」「言語力」「創造力」「論理的思考」「探求力」「内省的思考」）を発揮させ、育成するために、「自律」「ことば」「創造」「論理」「探求」の5領域と、子供が5領域の学びをつなぎ、自己の成長を自覚したり、よりよい自分の在り方を考えたりする「学びの時間」による教育課程を編成・実施している。</p> <p>そして、教育課程を実施する上で「豊かな体験活動と言語活動のつながり」を大切にしている。とりわけ、教育課程の中核としている「探究」領域での体験活動と、そこでの学びを振り返ったり、学びを意味付けたりする言語活動とのつながりを重視している。この「探究」領域で重点的にはぐくむ「探究力」こそが、子供に、これからの社会を切り拓いていく資質・能力を育成するための原動力になるのではないかと考え、「探究」領域において「論理的思考力」「言語力」「創造力」「自律性」を発揮して横断的・総合的な問題解決ができるよう、活動の充実を図り、子供の資質・能力育成を目指した教育課程の開発に取り組むこととした。</p>	

◇第1学年 テーマ「みんなでわくわく ダンボールランド」

1年生は、ダンボールの遊び場をつくったり、つくった遊び場で楽しんだりする活動に年間を通して取り組んだ。ダンボールは、保育園・幼稚園や各家庭で扱ったことのある子供も多く、子供たちにとって非常に身近な素材といえる。だからこそ、自分や自分たちのつくりたいものに向かって、発想力豊かに形をつくったり、試行錯誤したりしながら活動を進める姿が見られた。また、「ダンボールランド」をオープンするために、様々な問題が出てきたが、その度に、仲間と話し合い、解決策を考えて、自分たちの力で解決しようとするようになってきた。「ダンボールランド」への招待では、2～6年生の上級生や保育園・幼稚園の園児、保護者の方などに遊んでもらった。どうすれば来てくれた人に楽しく遊んでもらえる「ダンボールランド」になるのか考え、遊び場をつくり変えたり、かかわりを変化させたりする姿が見られた。これらの活動を通して、「最後まで粘り強く活動に取り組む態度」や「仲間と協力し合い、互いのよさを認め合う心」、「様々な人とかかわりを深めようとする態度」などが育った。



◇第3学年 テーマ「発見！ミラクル☆朝市」



3年生は、町探検で出会った高田の朝市の魅力を追求・発信していく活動を行った。朝市で買い物をしたり、店の人に話を聞いたりしてかかわっていくことで、「朝市のミラクル=すてきな商品や魅力」がたくさん見つかった。始めは、朝市で売られている「もの」だったのが、だんだん売る「人」や生み出す「人」に視点が広がり、さらには朝市の人々の「思い」「願い」などに気づきや考えが深まっていった。そうした活動の積み重ねと同時に「朝市かわら版」にまとめていく学習、親子活動で作った「朝市のぼり旗」で行った朝市 PR 活動、「朝市感謝祭」に参加など、他者へ発信していく活動も行い、相手意識をもち、その魅力を効果的に伝える表現方法も学んだ。

また、活動を通して話し合っ物事を決めることや意見を出し合っよりよいものに練り上げていくこと、自分の考えに折り合いをつけることなど、コミュニケーション能力を育むことにもつながった。

◇第5学年 テーマ「食べることは」

「命の大切さ、食の大切さを学びたい」と、野菜や米、豚を育てる活動を始めた子供たち。栽培活動では、機械や農薬を使わないことを決め、あらゆる作業を手作業で行い、栽培にかかわる苦労を実感した。その分、収穫の喜びを感じるとともに、作物の命をいただいていることに目を向けるようになった。飼育活動では、豚の「スター」を家畜と思いながらも自分たちの仲間であり友達であると捉え、熱心にかかわる姿があった。しかし、当初の目的である「出荷」の時期が近付くと、「スターを出荷するのか、



しないのか」について葛藤が生じた。「学習のために自分たちの都合で出荷することが許されるのか」「出荷することで命の大切さが分かるんだ」等、子供たちは、「出荷すること」そして「命をいただいて生きているということ」の本当の意味について考えた。豚の出荷を経験した子供たちは、「命を奪って生きていることの重さ」を理解し、この後も無数の命を奪い続けていかなければいけないことに気付いた。

「命を奪わなくてもよい食の可能性」からたどり着いたのが完全食。命を奪わない可能性のある生活を実際に行ってみようとして「未来の食糧その日」を行った。未来食の体験をしながら現代の食の問題について、たくさんの講師の方から様々な切り口で話をしてもらい、食についての自分の考えを創ることができた。

◇上記の3学年に限らず、当校では豊かな体験を確かな学びにつなげるために言語活動を大事にしている。「体験」と「言語」のつながりを重視することで探究力を発揮しながら学ぶ姿が生み出される。一人一人の子供の豊かな体験活動を保障し、自分の考えを整理したり意味づけたりする言語活動を設定することが資質能力を発揮しながら学びを深めることに有効になることが子供の姿から見えてきた。